

平成 25 年度 動物実験に関する現況調査票

昭和大学

平成 26 年 6 月

3. 年度ごとの承認された動物実験計画数

動物実験計画数	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	404件	411件	396件	348件	298件

4. 年度ごとの動物実験に関する教育訓練の受講者数

教育訓練受講者数	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	281人	124人	147人	126人	116人

5. 実験動物飼養保管施設の現況

施設の名称	管理者の職・氏名	実験動物管理者の職・氏名(関連資格・経験年数)	動物種	最大飼養頭数(概数)
昭和大学動物実験施設	教授・塩田清二	准教授・荒田 悟 (施設管理年数 11年)	マウス ラット ウサギ モルモット イヌ	9,500 1,800 80 200 12
昭和大学動物実験施設(分室); P1A 6室、P2A 2室	教授・塩田清二	准教授・荒田 悟 (施設管理年数 11年)	マウス ラット	980 200

飼養保管施設の数に応じて、表の行を増やしてください。

6. 特記事項

(動物実験に関連した、機関の特徴や特殊事情)

昭和大学は、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部からなる医系総合大学である。全学部の動物実験における計画書の審査、実験の把握、終了報告書の管理等は、本学の動物実験委員会が学長の諮問を受けて担当している。旗の台キャンパスの動物実験施設では、全学部のほぼすべての動物実験が行われている。富士吉田キャンパス、横浜キャンパスに学部実習のための小規模の飼養保管施設があり、また旗の台キャンパスの中央の施設のほかに研究室内に6つのマウスまたはラットの飼養保管施設(繁殖は行わない)がある。これらすべての施設は、動物実験施設の分室として一元的に管理している。長所としては、学内における動物実験全体を把握することが容易であり、問題点の洗い出しやその対応が迅速に行える。また、各学部、及び富士吉田教育部から専門性の異なる委員を選出して統一した計画書の審査ができることなどがある。問題点としては、計画書の審査件数が毎年300件程度と膨大になること、また、動物実験が多種多様であり十分な実験スペースの確保が難しいことが挙げられる。